

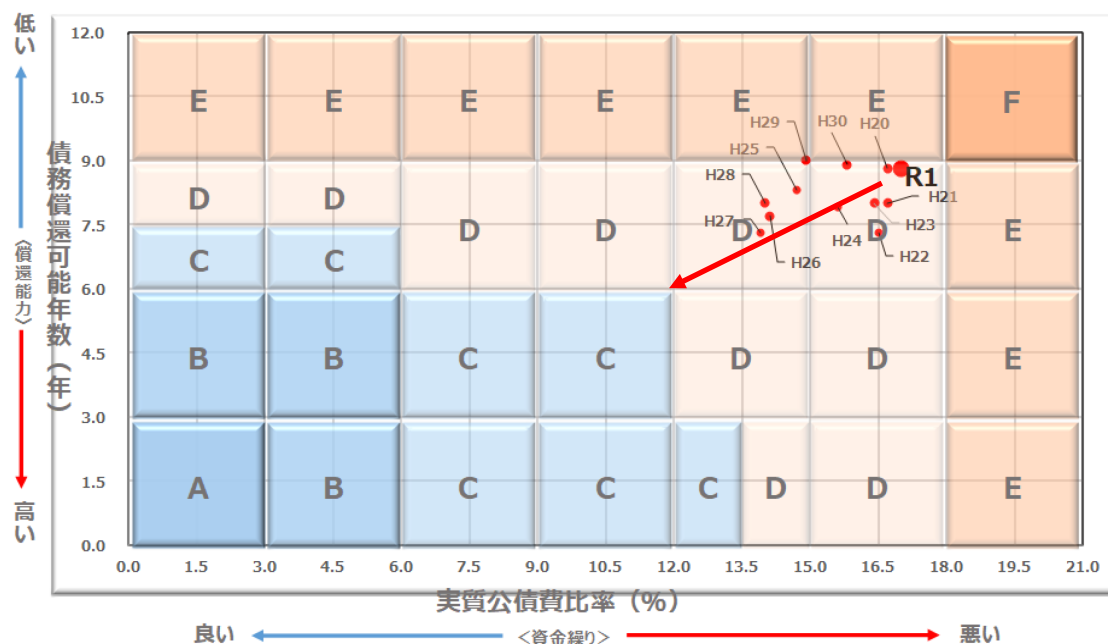
令和 2 年度 ACTR

分類 番号	A8	取組 名称	与謝野町の持続可能な行財政マネジメントシステムに関する研究
研究代表者所属・職名：		公共政策学部・教授	氏名： 川勝 健志
研究担当者：			
京都府立大学（公共政策学部・教授・川勝 健志） 外部分担者・協力者（与謝野町企画財政課・主任・渡邊稔之、同・廣野智史 課長補佐・小谷貴儀）			
主な連携機関（所在市町村、機関（部署）名）			
京都府与謝野町企画財政課			
【研究活動の要約】			
・ 平成の合併から 10 年余りが過ぎ、与謝野町では合併に伴う特例措置が間もなく終了します。2 年計画で行った本研究の 1 年目は、与謝野町財政の今とこれからを資金繰り（フロー）と償還能力（ストック）の両面から診断しました。 ・ 行革とは単にどれだけ効率化したのかということだけでなく、どれだけ住民生活の質向上に資することができたのかが問われなければなりません。したがって、上記の目標を達成するために、2 年目となる今年度は、同町で行革を住民生活の質を高める方向に具体的かつ体系的に進めていくために、総合計画と財政計画、さらには事務事業評価が有機的に結びつく、いわば「持続可能な行財政マネジメントシステム」の開発を試みました。			
【研究活動の成果】			
・ 財政分析の結果、与謝野町は合併特例のあった 10 年を経てもなお財政状況は低位（A～E の 5 段階で D ランク）の状況から脱することができていないこと、財政の持続可能性を確保するには、少なくとも C ランクへの再建を可能にする行革が必要であることが明らかになりました。そのため、2020 年 3 月に策定された同町の「第 3 次行政改革大綱」では、期間（令和 2 年度～5 年度）内に債務償還年数 7.5 年以下という数値目標が設定されました。 ・ 上記数値目標を達成することを算定根拠に財政見通しをシミュレーションし、与謝野町の「中期財政計画（令和 4 年度～令和 10 年度）」を作成した。 ・ 持続可能な行財政システムの開発の手がかりとして、兵庫県川西市の事例に学びつつ、【参考】にあるような「持続可能な行財政マネジメントシステム」を開発し、枠配分予算と総合計画を重視した予算編成手法の導入を提案しました。 ・ 与謝野町では、令和 3 年度に同システム導入のための研究・準備を行い、令和 4 年度に一部試行、令和 5 年度に導入を目指すことになりました。			
【研究成果の還元】			
・ R2.3.9. ACTR 成果報告会配布資料「与謝野町財政の持続可能性を診断する」（希望者への配布可） ・ R2.3.31 「第 3 次与謝野町行政改革大綱」 ・ R3.3.31 「与謝野町財政計画（令和 4 年度～令和 10 年度）」 ・ 「ACTR 成果最終報告会」（コロナウイルス感染症拡大のため、開催日程については調整中）			
【お問い合わせ先】 公共政策学部 財政学・環境経済学研究室 教授 川勝 健志 Tel: 075-703-5304 E-mail: kawakatsu@kpu.ac.jp			

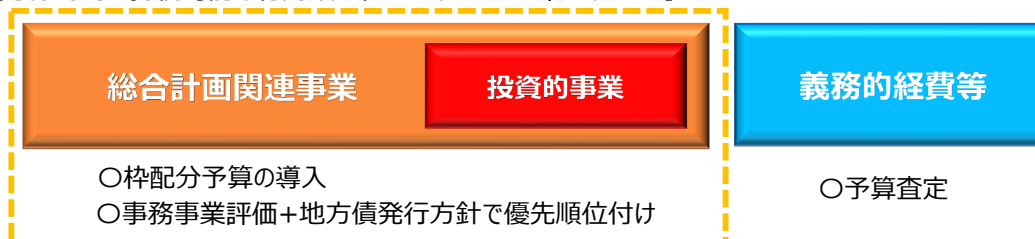
参考（イメージ図、活動写真等）

【債務償還可能年数と実質公債費比率の関連表】

※与謝野町独自の評価の枠組み。一般的に使用されているものではありません。



【与謝野町の持続可能な行財政マネジメントシステム案のイメージ】



【事務事業評価と総合計画の関連イメージ】

